

# 安定・効率的な内航輸送に係る石油業界の対応

2025年9月26日

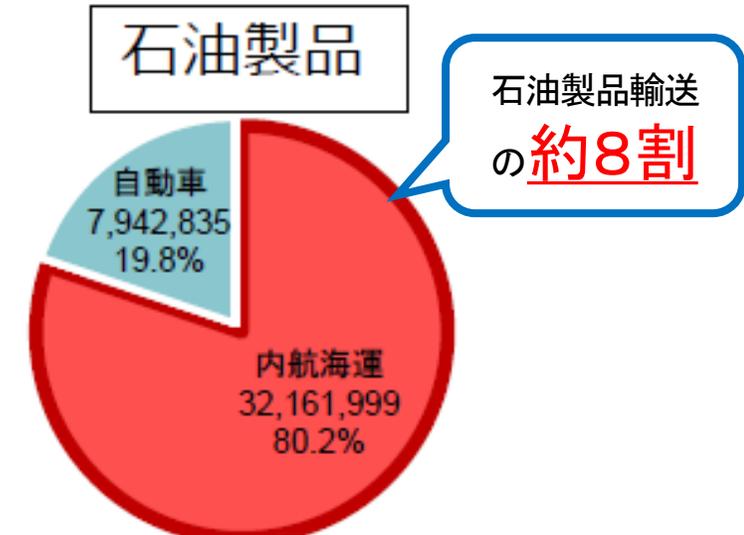
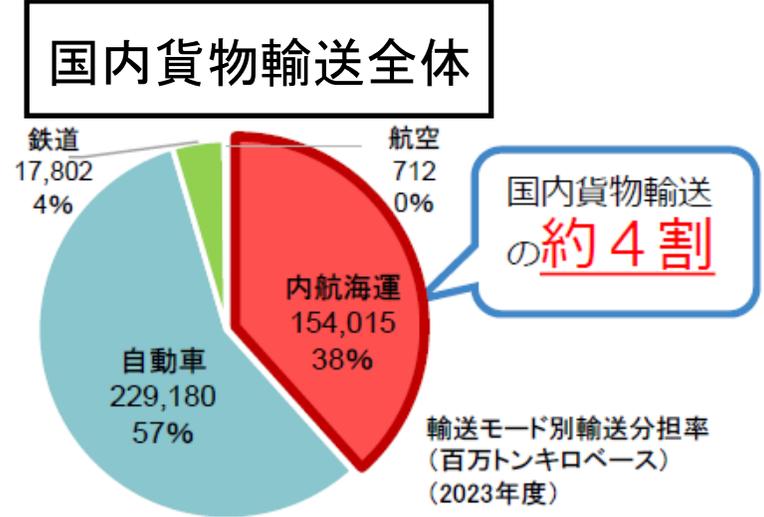
石油連盟

<目次>

1. はじめに（石油業界の基本的認識）
2. 石油業界における内航輸送の現状・課題
3. 荷主と内航海運業者との連携強化優良事例
4. 取引環境改善・生産性向上に向けた今後の取組方針
5. 内航安定輸送に係る政府への要望事項

# 1. はじめに（石油業界の基本的認識）

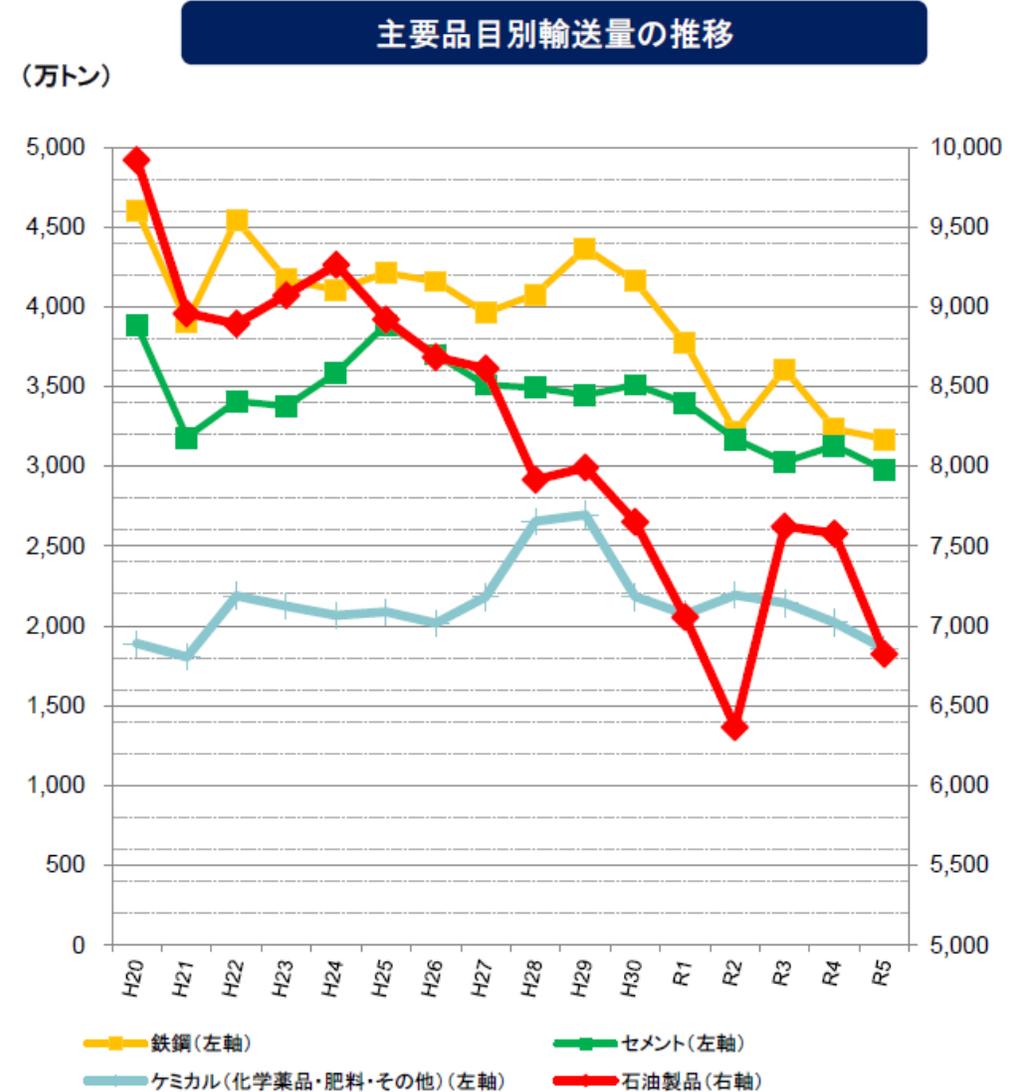
- 石油安定供給に係る内航海運業界並びに政府のご協力に感謝申し上げます。
- 内航輸送は、石油製品輸送の約8割を占める石油安定供給の“要”です。
- 石油業界は、法令を遵守しつつ、内航海運事業者様との対話に真摯に対応し、内航海運の安定輸送に資する検討を進める所存です。



(出所) 国土交通省HP

## 2. 石油業界における内航輸送の現状・課題

- 構造的な石油需要減少により、石油製品の内航輸送量は大幅に減少。石油需要は、今後も減少傾向で推移の見込み。
- 船員の働き方改革への対応、船員の高齢化と若年層船員の定着率低下に伴う船員不足により、内航輸送能力が低下傾向にあることを懸念。内航安定輸送の維持には、船員・人手の確保が不可欠。
- 石油業界は、内航海運事業者様との労働環境改善や作業効率化に関する対話に真摯に対応し、内航海運の安定輸送に資する検討を進める所存。



(出所) 国土交通省HP

### 3. 荷主と内航海運業者との連携強化優良事例（1）

#### (1) 船員の作業負担軽減

##### ① 自動荷役システム搭載船による荷役監視業務の緩和

⇒自動荷役システム搭載船での甲板上での実液面常時監視の緩和※について本運用開始。最大で荷役時間の70%を室内待機（休憩）等に充当。

※オーバーフロー等に備えた船員の目視によるタンク監視を、自動荷役システムによる積み揚げにおけるタンクの切り替え時のみとして、他の時間は休憩等に充当することを可とした。

##### ② 船舶（2,000KLクラス以下）燃料のA重油への専燃化による清掃負担軽減

⇒船舶燃料を適合油（C重油）からA重油に専燃化することで、ストレーナー清掃頻度を減らし、船員の作業負担軽減（清掃時間20～40時間/月削減）。要望により大型船もA重油専燃化。

##### ③ 船食デリバリーサービスによる司厨長・船員の労働負荷軽減

⇒運航会社手配の外部デリバリー委託業者に対してセキュリティを両立させつつ入構を許可することで、バース付近での食料配達を可能とし、司厨長や船員の構外への買い出しの手間を削減。

##### ④ 熱中症による労働災害防止

⇒製油所・油槽所の安全基準に基づきつつ、荷役作業中における熱中症対策グッズの使用許可（保冷剤ベスト、ネックリングクーラー、ただし、防爆型のファン付き作業服は制限あり）

### 3. 荷主と内航海運業者との連携強化優良事例（2）

#### (2) 他社との協力による船腹確保・輸送効率化

##### ①他石油元売会社との合積み

⇒他社で装置トラブルが発生した際の支援として他社に自社製品を販売した際、自社船舶に当該社の基地向けの製品と近隣の自社基地向け製品を積み合わせて輸送（通常は販売先が船を手配して引き取り）。

##### ②他石油元売会社への自社専航船の貸し出し

⇒他社専航船にトラブルが発生した場合に、自社専航船を貸し出し。

#### (3) 省エネ推進の取組

##### ゲートラダー®※設置の省エネ船リプレイスに係る運航会社との合意

⇒ゲートラダー®設置船舶への更新および傭船を運航会社と合意。

※プロペラ両側に取り付けて（通常の舵はプロペラ後方に取り付け）、船の省エネ性能を向上させる特殊形状の舵。

#### (4) 安全運航への取組

##### AR（拡張現実）ナビゲーションシステム※の導入による安全運航の向上

⇒一部専航船においてARナビゲーションシステムの搭載を合意。

※船橋からのカメラ映像に、航行に必要な情報を重畳表示。悪天候時や夜間など目視確認がしづらい状況における操船・見張りのサポートを行う。

# 4. 取引環境改善・生産性向上に向けた今後の取組方針

- 石油需要は、2025年度以降も燃料油計で年率マイナス2%以上の割合で減少の見通し
- 国内燃料油需要が減少し続けている現状を踏まえつつ、荷主業界として何が出来るのか、業界単位で出来ること/個社単位で行うことを峻別しつつ、内航海運業界との対話に真摯に対応し、課題の解決に向けて検討を進めたい。

2025~2029年度 石油製品需要見通し(燃料油総括表)

	実績	実績見込	見通し					年率	全体	構成比	
	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2024 /2029	2024 /2029	2024年度	2029年度
ガソリン	44,505	43,552 ▲ 2.1	42,404 ▲ 2.6	41,384 ▲ 2.4	40,510 ▲ 2.1	39,480 ▲ 2.5	38,591 ▲ 2.3	▲ 2.4	▲ 11.4	31.9	31.6
ナフサ	36,160	34,236 ▲ 5.3	33,954 ▲ 0.8	32,791 ▲ 3.4	31,961 ▲ 2.5	30,877 ▲ 3.4	30,047 ▲ 2.7	▲ 2.6	▲ 12.2	25.1	24.6
ジェット燃料油	4,381	4,283 ▲ 2.2	4,317 +0.8	4,325 +0.2	4,336 +0.3	4,325 ▲ 0.3	4,322 ▲ 0.1	+0.2	+0.9	3.1	3.5
灯油	11,798	10,865 ▲ 7.9	10,910 +0.4	10,343 ▲ 5.2	10,015 ▲ 3.2	9,675 ▲ 3.4	9,379 ▲ 3.1	▲ 2.9	▲ 13.7	8.0	7.7
軽油	31,225	30,711 ▲ 1.6	30,353 ▲ 1.2	30,014 ▲ 1.1	29,794 ▲ 0.7	29,451 ▲ 1.2	29,167 ▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 5.0	22.5	23.9
A重油	9,842	9,673 ▲ 1.7	9,331 ▲ 3.5	8,954 ▲ 4.0	8,601 ▲ 3.9	8,252 ▲ 4.1	7,948 ▲ 3.7	▲ 3.9	▲ 17.8	7.1	6.5
一般用B・C重油	4,112	3,224 ▲ 21.6	3,164 ▲ 1.9	3,055 ▲ 3.4	2,937 ▲ 3.9	2,832 ▲ 3.6	2,748 ▲ 3.0	▲ 3.1	▲ 14.8	2.4	2.2
燃料油計 (電力用C重油を除く)	142,023	136,543 ▲ 3.9	134,433 ▲ 1.5	130,866 ▲ 2.7	128,154 ▲ 2.1	124,892 ▲ 2.5	122,202 ▲ 2.2	▲ 2.2	▲ 10.5	100.0	100.0
電力用C重油	2,548	1,529 ▲ 40.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
B・C重油	6,660	4,753 ▲ 28.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
燃料油計(参考) * 上記燃料油計に電力用C重油(参考)を加えた数値	144,571	138,073 ▲ 4.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注1) 上段の数字は燃料油内需要(千kl)、下段の数字は対前年比(%)

(注2) 四捨五入等の関係により数値の合計が合わない場合がある。

(出所) 経済産業省「石油製品需要想定検討会」資料(令和7年4月25日)

## 5. 内航安定輸送に係る政府への要望事項

- 内航安定輸送の重要課題である船員不足対策の推進をお願い致します。
- 内航輸送の一層の効率化、労働環境・生産性向上、省力化に資する技術開発・設備投資等に対する政府支援をお願い致します。
- 内航カーボンニュートラルに向けた技術開発や設備投資等に係る政府支援をお願い致します。

以上